



淀川調査

大阪の生物多様性ホットスポットの一つである淀川において、魚類や二枚貝などの生息状況を長期にわたり把握するため、10年に一度の全域調査や、毎月のワンド定点調査を行っています。

淀川環境



城北ワンド群

- 淀川には流れのある本流以外に、ワンドと呼ばれる“入り江”や“たまり”が多くあり、多様な環境が多くの生物の生活する場所を提供しています。

調査内容



地曳網による調査

魚類調査

- 長さ30mの地曳網などを用いて魚類を捕獲し、魚種や大きさを調べて川に戻します。
- 魚類の生息状況や繁殖状況、外来種の侵入状況を把握し、保全などに役立てます。



魚の鰓に寄生する腹口吸虫類

魚病調査

- 魚類の大量死を起こす可能性のある疾病が発生していないかを、調査しています。
- 自然生態系への影響把握のみならず、飲み水の原水となる淀川での魚類へい死の原因究明に寄与します。



調査で確認した貝類

二枚貝調査

- イシガイ科二枚貝は、タナゴ亜科魚類の産卵に必要である等、生態系で重要な役割があります。
- 二枚貝類の生息状況や繁殖状況を調査しています。



ワンドを覆いつくすボタンウキクサ

外来植物調査

- ワンドを覆いつくすように繁茂し生態系や水質に影響を及ぼす、外来植物について調査しました。
- 遮光シートによる発芽抑制や、発芽期の早期除去など効率的な駆除・抑制方法を開発し提供しました。